

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790101099		
法人名	株式会社 ふれあいの里		
事業所名	サンケア東長江		
所在地	金沢市東長江町へ13番地1		
自己評価作成日	令和6年11月6日	評価結果市町村受理日	令和6年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社Emu
所在地	石川県金沢市窪7丁目364 伏見台ガーデンコート西尾ビル506
訪問調査日	令和6年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念“ひとの「生きる」を照らしたい。”
 ご入居者様やそのご家族、地域の皆様、ここで働く従業員も、おひとりおひとりの人生がもっと明るく、暖かくなるように。私たちは事業活動を通じてひとと社会を照らす太陽になりたいと考えています。
 私たちサンケア東長江は、自然に囲まれた場所に位置し、窓を開けると近隣の小学校から子供たちの元気な声が聞こえてきます。活動も徐々に再開し、ボランティアさんによる太鼓、マジックなども開催しています。内科や歯科とも連携し、異常の早期発見や早期治療につなげ、日々皆様の体調管理に留意しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設からコロナ渦の状態にあり、なかなか地域との連携が取れない状況が続き、少しずつ学校行事の応援など行ってきたが、今年度は初めて「秋まつり」が開催された。地域からテントやテーブル、イスなどをお借りし、食券なども購入して頂き、子どもたちもたくさん参加して頂くことができた。ご家族の方も、ゆっくりとご利用者と過ごす事ができ、ご利用者からたくさん笑顔を見る事が出来た。今回は全てスタッフで行ったが、今後も継続していくことから、様々な反省を活かし、ボランティアなどの協力を得ながら開催出来る事を期待する。毎年行っているマラソン大会の応援は今年は天気が悪く、居間からの応援となったが、子ども達が気づいてくれ、応援により喜び合う事が出来た。昨今終末期ケアも増えているが、かかりつけ医、看護師、介護士とチームで連携をし今までどおり対応して頂きたい。ご利用者、スタッフともにアットホームな環境がこれからも続くことを期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念及び行動指針を事業所内に掲示している。また企業理念と行動指針を基軸に各ユニットでの月次目標を掲げ管理者が出席するユニット会議において共有と実践に繋げている。	企業理念「ひとの生きるを照らしたい」の元、今年度は「ご家族との友好・地域交流」を事業所の目標とし、「秋祭り」を初めて企画し、地域の協力を得ながら開催した。 予想した以上にご家族や地域の方にご参加いただき、ご利用者の笑顔が見られ、理念の実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の郵便局の活用や地域の小学校との連絡活動には参加する機会を持ち、地域の一員として受け入れていただけるよう交流の場を大切にしている。今年度も小学校のマラソン大会の応援団として参加させていただき、できる限りの繋がりや関わりを実践している。	秋祭りでは、学校や公民館など、地域の方のご協力でテントやテーブル、イスなどお借りする事が出来た。毎月のお便りで事前に告知をすることができ、食券の注文等も頂けた。又、地域の子どもたちは水風船などのコーナーで賑わっていた。今年度はスタッフのみで開催したが、来年度からはスタッフの家族やボランティアの方にも協力して頂き、今後も開催を継続される予定である。	秋祭りの初開催でご利用者の笑顔、地域のつながりが出来るようになったため、今後も継続される事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に会議に参加していただきすこしづつ認知症の方を理解していただく機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議により、事業所の活動やご意見を聴きながらサービス向上にめざしてる。	11月26日開催予定の運営推進会議は事業所が「こども110番」に登録されたことをうけ、小学校、こども園に連絡したところ、校長先生、園長先生、町会長なども会議に参加予定となった。地域の要望なども聞けるように企画を進めている。1月の開催はご家族の参加がしやすい会議になるように企画されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は市に問い合わせさせていただき、ご指導いただいている。	現在、1月1日の地震被害により、能登から被災者を2名受け入れており、震災以降、輪島市の指定申請を行った。金沢市とは入居状況の確認や受け入れについて連絡をとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上安全のために施錠することはあるが、希望があれば職員と共に外へ出ることは可能である。また身体拘束委員会を通じて、3ヶ月に1回勉強会を実施し、職員教育にも取り組んでいる。	研修は動画を通じて各自オンラインで受講しており、身体拘束については3ヶ月に一度、全員参加で勉強会も実施されている。勉強会だけでなく、ベッドの配置や柵の設置など、実際のケアを通して身体拘束にならないかを検討し、実践の中で理解を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為が起らないよう、管理者が参加する毎月のユニット会議では、認知症について学ぶ機会を設け、職員同士がユニットにおける出来事やケアを題材にし、考える機会を持てるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し、制度の理解に努めそれらが必要な入居者様へ活用できるようにしていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明し、不明点には丁寧に答え、安心して入居いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様へは事業所に対する要望や希望など引き出せるような会話を心掛け、ご家族には来所の際や入居者様のご様子についてご連絡させていただく際にご意見を伺っている。すぐに反映可能なことは早急実践し、時間を要することについては、その旨ご説明し反映できるよう努めている。	ご家族の要望をお聞きするため、秋祭りの後にアンケートを実施する予定をしている。普段来所の際にご家族から要望をお聞きしているが、玄関先での面会ではなく、居室での面会希望などがあり、感染症の予防も含め検討されている。ご本人からは買い物に行きたいなどがあり、近くのコンビニに行かれたりして対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、品質会議(幹部会議)やユニット会議を開き、業務に関する意見や提案を出し合える機会を設けている。そこでの変更点や決定事項は職員と共有している。	運営に関して職員の意見は会議などで意見を聞いたり協議を行っている。意見については出来る限り取り入れるようにしている。会議ではなく、個別に話をするのを希望される方には機会を設け、個別対応されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な上司と面談を実施している。また人事評価により、職員一人一人が自己の目標を決め、自己評価、上司評価があり、その評価に反映する仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育・中途入職者教育等事業所内で各委員会主催の研修会を実施している。今後も個々のスキルの研鑽のために初任者研修、実務者研修などの受講を支援していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内はもちろんのこと、同地域の事業所とも積極的にコミュニケーションをとっていきたい。介護サービスの質の向上を図っていききたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメントによる情報等を職員が共有し、入居直後は特に環境の変化による不安定な心情に寄り添い、安心して過ごせるよう支援し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細なことも早めに連絡・相談し、安心につなげるようにするなどして、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既に入居を望んでおられることが殆どではあるが、「認知症対応型共同生活介護」というサービス種別がご本人にとって適切であるか、という視点を持ち初回アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる事ややりたい事が続けられるように、一緒に挑戦したり役割や生きがいに繋がるような支援をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご本人の日用品などお持ちいただくことや、受診への付き添いなど共にご本人を支える関係が継続できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後、馴染みの人や場所の関係継続は中々難しい現状ではあるが、会話の中で話題にすることや、入居後から新たに他入居者様や職員との馴染みの関係が構築できるよう支援している。	現在、ご利用者とスタッフがアットホームな雰囲気、ご利用者同士も馴染みの関係を構築されている。 これまで利用されていた美容院やご法事、墓参りなどはご家族を通じて継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性の把握と、入居者様同士の日頃の関わり合いにも注視しながら、みんなで参加できるレクリエーションの計画等で孤立する方の無いように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了(特養入居・医療機関への入院)時、ご家族へは何時でもご相談をお請けする旨、お伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のこれまでの暮らし、ご本人の思いを把握するように努めている。またご家族と話す機会を設け、ご家族の希望や思いを確認している。ご本人の意向が困難な時には、ご家族と話し合いご本人にとって必要な支援を行っている。	入浴は無理強いをせず、本人の要望に応じて自由に入れるようにしており、食事については、食べたくないものなどは残していいよとお声かけしている。予約注文で配達されるコッペパンが喜ばれており、チラシを見て選んだりして本人の意向を取り入れられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネやご家族などから情報を収集し、アセスメントを行い少しでも多くの情報や、複数の視点からご本人の様子や思いを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の過ごし方、心身の状態が理解できるように現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの状態を職員間で情報共有することにより、ご本人の課題に合わせた計画の作成・実施・モニタリングに活かしている。	モニタリングはご利用者の担当者が行っている。モニタリング後、職員が集まり、カンファレンスなどで協議されている。それを計画に反映させご家族にお伝えしている。ADLが落ちた場合などはケアマネジャーに相談し、計画の変更を随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録はPCに入力しており、ケース記録、各種チェック表等でモニタリングをし介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス種別にて法令順守の下、柔軟な支援やサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り地域資源との協働に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医と連携を取りながら、適切な医療が受けられるようにしている。必要時はご家族にも報告と承諾を得ながら支援している。	かかりつけ医による受診がユニット毎に週に1回あり、事業所には隔週で来て頂いている。かかりつけ医は24時間対応で、何かあればすぐに相談できる環境が整っている。歯科医の往診もあり、口腔ケアや入れ歯の様々な問題についても対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員から、入居者様の健康についての相談や報告が適切に行われており、異常時や緊急時には搬送、受診に繋げることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時は、早急に入院先への情報提供を行い病院関係者との連携に努めている。入院中も、病院関係者と情報交換や相談をし、退院後のスムーズな受け入れができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応を説明しているが、ご本人・ご家族の考え方を尊重し事業所で出来る事を説明しながら支援を行っている。ご家族の要望で入院を希望された場合は、入院の支援を行っている。また、看取りを希望された時には、ご家族・主治医・看護・介護と連携し支援している。	現在終末期の方が数名おられる。既にかかりつけ医よりご家族に説明があり、看取りを希望された事から承諾書もご記入頂き、終末期ケアに入られている。終末期ケアマニュアルに基づき、ご家族、かかりつけ医、看護師、介護士が連携をとり支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応を共有し、介護職員と看護職員との連携で応急手当や初期対応が出来るよう備えている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時のマニュアルを活用、緊急連絡網の作成など整備している。緊急時の対応後は事故分析を行い事故原因との是正改善案を会議で話し合い、二度と繰り返さないよう情報の共有を図っている。	緊急時としては転倒や急変などがあり、かかりつけ医に連絡を取り、受診や救急対応されている。対応後は事故分析を行い、是正策を会議で話し合われている。行方不明などは発生していないが、マニュアルは整備されている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	内科医師の来訪は毎週あり(往診は2週間に1回)、他に必要時歯科医師の診察を受けることができる。総合病院を協力医療機関、特別養護老人ホームをバックアップ機関としている。	内科のかかりつけ医はユニット毎に週に1度診察がある。2ユニットある為、隔週で往診がある。歯科医の訪問もあり、口腔ケアや入れ歯のかみ合わせなども対応されている。総合病院や特別養護老人ホームなどとも連携をとられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤体制は各ユニット1名で2ユニットあり建物内には2名となる。必要に応じて管理者・介護主任との連絡体制や内科医（ホームDr）とも緊急時の連絡体制が構築できている。	夜勤は各ユニット1名で事業所としては2名で対応されている。緊急時などはかかりつけ医、スタッフとも連携が取れるようになっており、連絡体制が構築されている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は実施し全職員が避難方法を学んでおり避難場所は夕日寺小学校となっている。	年2回の防災訓練は実施されている。1月1日の地震の際は、1階のご利用者スタッフは全員2階に避難しており、3日に通常体制に戻られている。外泊されていたご利用者も安否が確認され、安全が確認された3日に戻られている。	土砂崩れが危険な区域であり、道路など交通網が遮断された際にも困らないように、復旧までの必要な備蓄や必要な備品の確保を期待する。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	事業所内での避難経路や消防設備の点検・確認を行っており、緊急連絡網を整備している。	事業所内の避難経路の確認や消防設備点検はおこなわれている。BCPIに基づき、卓上訓練などもされている。1月1日の地震の際は緊急連絡網でスタッフの安否も確認されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を大切に、人権を考慮した姿勢でケアを行っている。トイレ誘導時のさりげない声掛け、会話の声の大きさにも配慮するなどプライバシーを損ねない対応に努めている。	外国人の介護士が増え、オンラインで研修をした後、人格やプライバシーに関しては入浴や排泄のケアを通して、実践で対応方法や声掛けの理解を促している。基本を教え合う事でお互いが再認識出来ている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望が表せるよう心がけ個別にケアを行っている。また、多くの場面で自己決定できるように働きかけを行っている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々のペースや生活習慣に合わせた「その人らしい暮らし」を理解し、体調や要望を伺いながら希望に添えるよう支援をしている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型の決定や、着替えの洋服選びを一緒に行うことで、入居者様が自身の身だしなみに関わり、好みやこだわりが出せる機会をつくるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けや、おやつレク等は、入居者様にお声掛けし職員と一緒にやっている。	お誕生会が2ヶ月に1度、1階2階、合同で行っており、手作りおやつでお祝いされている。食事も要望の多いものをテイクアウトなどを利用し、提供され、喜ばれている。おやつ作りや片付けなどご利用者の出来る事は一緒にやっている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの考えられた食材が外部業者より確保できている。食事摂取量、体重の変化、水分バランス等状態に合わせて考慮し支援している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて、毎食後の口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科医にも相談し助言をもらっている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録等で把握し、その方にあったトイレ誘導をしている。また、カンファレンスを行い可能な限りトイレでの排泄が続けられるように考え支援している。	排泄は自立の方が多いが、お声かけが必要な方は排泄パターンを把握し、自立でできるよう支援している。汚染がある場合はプライバシーに配慮し、パット交換などを行い、出来るだけ、自立が持続できるように支援に取り組まれている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給と、程度な運動を心がけることで自然排便を促すよう努めている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定してあるが、その方にあった時間や声掛けで入浴している。入浴日以外でも、希望や諸事情に合わせていつでも入浴は可能である。	入浴は午前中に行う習慣になっているが、午後から希望される方には午後から入浴できるように対応されていて、自由に入浴できるよう支援されている。入浴剤は紫色が人気で、入浴時間を楽しまれている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣にあった休憩や安眠ができています。質の良い睡眠が得られるために、昼夜の生活リズムが整えられるよう支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は介護職員が、薬の管理は看護職員が行っている。また、入居者様に処方されている薬の副作用や用法などについては、薬情報を確認し、安全に確実に服薬が行えるよう支援している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、TVゲーム、園芸、洗濯たたみ、ちぎり絵、塗り絵、折り紙、演歌を聴くなど、入居者様が其々楽しみを持ち過ごされており、それを継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で制限があり、戸外の活動が難しい状況が続いた。緩和時期に開催された地域イベントには参加することができた。ご家族には対面から窓越しの面会にご理解、ご協力いただいた。	散歩などは日常行われているが、ご家族との面会がまだ居室では出来ないため、玄関先で行われている。秋祭りではご家族とゆっくり過ごせたため、笑顔が溢れていた。ドライブは喜ばれており、花見や美術館などに行かれ、購入した絵葉書で手紙を書き、ご家族に送られている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を使用する機会がなく、必要物品はご家族が用意されたり、引き落としで購入している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、はがきの支援は希望があれば行っている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は温かみのある色調で揃えてあり、トイレ、洗面所は広々とした間取りで車椅子の入居者様でも快適に使用できるよう工夫している。自然に囲まれた中に立地し、窓からの眺めは自然を感じて暮らせるようになっている。	秋祭りの時には居間にも入って頂いたため、ご利用者とスタッフで飾り付けが行われた。季節の飾り付けは恒例となったおり、現在はクリスマスに向けた飾り付けを準備されている。温度や湿度などはスタッフが管理しており、風量なども配慮されている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、キッチン、ダイニングテーブル、テレビ、ソファ(一人掛け・数人用)が設置されており、入居者様それぞれが自身の居心地の良い場所で過ごせるよう配慮している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの物や思い出の写真等を持ってきていただき、入居者様に安心感と居心地の良さを体感していただけるよう工夫している。	居室はお気に入りのものを自宅から持ってきている方が多く、写真なども飾られている。大きな衣装ケースなどで足元が危険なものは持ち帰って頂いたものもある。温度、湿度に関してはスタッフの方で管理され心地良く過ごせるようになっている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置により、歩行状態に合わせて車椅子や歩行器等が必要なときに使用できる環境になっている。		